

中野重治全集

第二十七卷

筑摩書房

中野重治全集第二十七卷

一九七九年六月二十九日初版第一刷発行

著者 中野重治

発行者 関根栄郷

発行者 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町二ノ八

郵便番号 一〇一—一九

電話 〇三〇七六五一（営業）

〇六七一—（編集）

振替 東京六—四一二三

印刷 株式会社精興社
製本 株式会社鈴木製本所

装釘 栃折久美子

第二十七卷 目次

文学生活断面

後記

著者うしろ書 最後の一つ手前として

解題

六九

六七

文学生活断面

林をおくる

『時のうごき』第一集のためのはしがき

『時のうごき』第二集のためのはしがき

『時のうごき』第三集のためのはしがき

『闘いのあと』序に代えて

林そのものの鳴るごとく

読者のために

読者のために

詩集にそえて

『闘いの環』序

『新しい詩の作り方』まえがき

三条の人びとに

人の世の因縁

日産労働者の詩と歌

三 四 六 八 一〇 一二 一四 一五 一七 一八 一九 二〇 二二 二三 二四

かすかな挨拶

『石の怒り』のために

積みかさねる力

『第三回ソ連作家大会』前がき

購読者の熱心な協力を訴える

『現代ソヴェト文学全集』をよろこぶ

『文学案内』について

木下三平の「国内よりの書簡」をすすめる

わたしの言葉

大関君の詩

『伯父スターリン』

新しい展望

編集にあたつて

詩集『ぶどうばん』

おのずからな総決算

『現代作詩辞典』をすすめる

農民と農村との問題

具合のいい点

たのしみ

この集の特色

手ごろということ

郭沫若『抗日戦回想録』

『日本詩人全集』の試み

人をよく見れば

読みたいから推す

特に戯曲をとおして

研究の対象として

私の期待

九月号各雑誌の作品について

女性作家にたいする希望

推奨する新人

執筆者として

「昭和四年上半期の印象に残った藝術」を問われて

プロレタリア映画運動について

来年は何をするか

なぜ詩を書くか

西鶴について

今後十年の予告

詩と童話とを

日本訳『ゴッホ全集』の完成によせて

「能動主義」について

文学を志す人のために

影響された本

わがひいきの人物とその理由

お茶の飲めるような場所にしたい

「コシャマイン記」について

新聞の九星欄

国文学者に求めるもの

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

壺

ふたりの新人

学藝欄の夕刊移行とその現状にたいし

「昭和十二年度において最も印象に残った作品」を問わ
れて

ニュース映画にたいする感想

少年少女たちに

六月の映画・演劇のうち

こんにちの日本で翻訳するべき洋書

「歴史」「密猟者」「光の中に」について

「いかなる内外新聞・雑誌を読んでいるか」との間に

「新党」問題について

最近の「文化映画」のうち

多少の変化あり

「関心をひいた」もの

読みたいもの読ませたいもの

わが今日の決意

「忠霊塔建設勤労奉仕の感想」を問われて

図書推薦ひとつ

『短歌至上主義』の廃刊にさいして

「二十一年上半期注目すべき書籍と雑誌」を問われて

世相にてらして

高校生に望むこと

私の予定

娯楽雑誌に注文

私は何を読むか

良書推薦

人事院規則と教授追放

一九四九年の収穫

刑務所と刑務官

地方文化・文学運動に望むもの

一九五一年への期待

海外へ紹介したい本

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

教育上の気がかり

わたしの答

二十台なら

福井図書館の思い出

条件づきで

来年に期待する作家・評論家

スターリン論文について

上野図書館について

文藝映画への興味など

私のすすめるもの 一

私のすすめるもの 二

軍機保護法と文学

私の推薦する本 一

私の推薦する本 二

私の推薦する本 三

私の推薦する本 四

二

二

三

四

四

五

五

六

六

七

七

八

八

九

九

十

私の推薦する本	五
私の推薦する本	六
石川啄木	九四
勝手な読み方	九四
ささやかな願い	九五
さしあたりお答え	九六
百科事典について	九九
結婚について	一〇〇
文学者として	一〇一
「財閥・官僚・資本主義の復活」など	一〇三
国語国字問題について	一〇三
何を読むべきか	一〇四
ことばづかい	一〇五
国語について	一〇五
『文藝首都』について	一〇六
葉山嘉樹	一〇六

少しは学んだ

一〇七

万事さかさまごと

一〇八

うちにあつたもの

一〇九

第二世界大戦について

一一〇

「三島事件」問いに答え

一一〇

一九七五年に読んだもののうち

一一三

詩の選を終えて

一一五

「社会主義リアリズムの確立のために」を推す

一一六

五篇の詩を採る

一一七

「二世代の敗惨者」について

一二八

福原宗雄の作その他

一二〇

精いつばい奔放に

一二三

自分のものを

一二三

若々しい熱情

一二四

新作家誕生のために

一二六

「われらの問題」選評

一二〇

選者の一人として

選者の言葉

竹本、岩田、小島を推す

コンクールにちなんで

「ひげ」を推す

「泥と水」について

特殊な困難

選者として

作者の態度

私の規準

生活をしつかり見て

人間生活との基本の関係

今年の結果

切実な同情

こんどの成績

審査を終つて

一三

一三

一四

一五

一七

一八

一九

二〇

二二

二四

二四

二五

二五

二六

二六

二六

実利実益の点

一六

開拓されるべき面

一六

「可聴の国・日本とは？」を推す

一六

静止的な姿 運動感覚の萎縮

一七

もつと野心的に

一七

「漱石、その現実と文学」を推す

一七

静止的平面的な点

一七

最近の収獲

一七

関根、上田、山中を採る

一七

二人の作品ほか

一八

もうひと奮発

一八

「平民的」でなさすぎる

一八

「たこなわ」を推す

一八

黒島伝治論を推す

一八

『プロレタリア藝術』一九二七年八月号編集後記

一八

『プロレタリア藝術』一九二七年十月号編集後記

一八

『プロレタリア藝術』一九二七年十一月号編集後記	一七
『プロレタリア藝術』一九二七年十二月号編集後記	一八
『プロレタリア藝術』一九二八年一月号編集後記	一九
『プロレタリア藝術』一九二八年三月号編集後記	二〇
『戦旗』一九二八年五月号編集後記	二一
『ナップ』一九三一年八月号編集後記	二五
『ナップ』一九三一年九月号編集後記	二七
『大衆の友』一九三二年二月号編集後記	二〇〇
『民衆の旗』一九四六年二月号編集後記	二〇一
『新日本文学』一九四九年六月号編集後記	二〇三
『新日本文学』一九五〇年十一月号編集後記	二〇四
『新日本文学』一九五一年一月号編集後記	二〇六
『新日本文学』一九五一年二月号編集後記	二〇七
『新日本文学』一九五一年三月号編集後記	二〇九
『新日本文学』一九五一年四月号編集後記	二一〇
『新日本文学』一九五一年五月号編集後記	二一一

『新日本文学』	一九五一年六月号編集後記	二三
『新日本文学』	一九五一年七月号編集後記	三四
『新日本文学』	一九五一年八月号編集後記	三五
『新日本文学』	一九五一年九月号編集後記	三六
『新日本文学』	一九五一年十月号編集後記	三八
『新日本文学』	一九五二年一月号編集後記	三〇
『新日本文学』	一九五二年二月号編集後記	三三
『新日本文学』	一九五二年三月号編集後記	三三
『新日本文学』	一九五四年九月号編集後記	三四
『新日本文学』	一九五四年十月号編集後記	三五
『新日本文学』	一九五四年十一月号編集後記	三七
『新日本文学』	一九五五年一月号編集後記	三八
『新日本文学』	一九五五年二月号編集後記	三〇
『新日本文学』	一九五五年三月号編集後記	三三
事務局から	一九五五年六月号	三三
事務局から	一九五五年七月号	三四